





飛天六勝

戰時生死不明者通報

昭和二年五月二十七日

飛行第六大隊隊長

東部軍留守部長

戰時生死不明者報告規定第二條據別紙通報又

...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...

Vertical text on the right page, possibly a date or reference.

官副長殿

飛入事大所

末初軍留并初長殿

飛行第丈六戰隊長

近於五月一七日生死不明トナル

○軍中丁村義仁大二三三沖繩沖

於五月一七日生死不明トナル

○特務長牧野武不昭三三九沖繩附近

極秘

陸軍省軍務部

飛大高第廿七號

生死不明者死亡認定ニ関スル件報告

昭和廿六年六月一日  
陸軍大臣殿

飛行第六十六戰隊長

昭和五年四月、沖繩附近敵輸送船攻撃ニ於テ生死不明トナリ左記者  
係ル首題ノ件昭和三十年陸軍密第九二二號ニ據リ別紙ノ通り  
認定シタルニ付報告ス

左記

陸軍中尉  
陸軍軍曹

高山昇  
飯沼良一



生死不明者死亡認定書

飛行第六大隊隊附

陸軍中尉

高山昇

同

陸軍軍曹

飯沼良一

一 生死不明トナル日時場所

日時

昭和三年四月二日

自 〇五五〇  
至 〇六〇〇

場所

慶良間列島南方海上

二 生死不明トナル前後ノ状況

人任務

沖繩附近敵輸送船攻撃

二 敵情

敵機八夜間制空シタルヲ認ムルニモ不明ト同時ニ

列島線ニ沿ヒ哨戒シテテ敵船團ノ情况別紙要

圖ノ如シ

三 氣象

沖繩島南東全般ニ下層雲アリ細部不明ナリキ

四 通信

機上無線機設備シタルモ連絡不能ナリキ

五 交戦状況別紙要圖ノ如シ

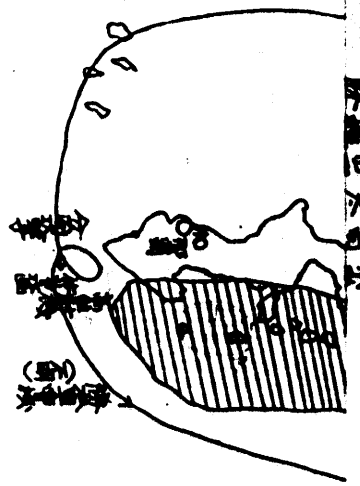
三、抹殺搜索手段

戰場上自隊ニ於テハ空中搜索其ノ他搜索不能  
 ナリ以テ在地各部隊ニ搜索ヲ依頼スルモ消息不明ナリ  
 四、死亡認定ノ理由

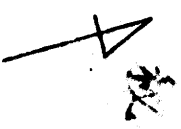
第一少隊機高機未歸還ナルニ第一番機 田野本曹長  
 (機)候補生機 認カシテ高山機ノ状況左ノ如シ  
 少隊ヲ分別使高山機ハ高度ヲ低下シツ別紙要圖地点  
 ニ接近スルニ行クニ認カシテ半機又ハ機迷墮一更ニ欠ノ  
 体當三枚ノ機死ニテラ 認カシテ機ノ地域的時間的關  
 係ヨリ高山機ノ体當ノ攻撃ニ依リ自爆死ニテ手ノ認定ス  
 昭和三年六月一日 陸軍省陸軍大臣 藤井 權吉

遺失機成表

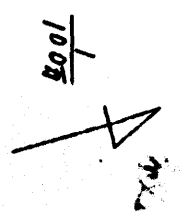
高山機  
 人高機  
 不明機



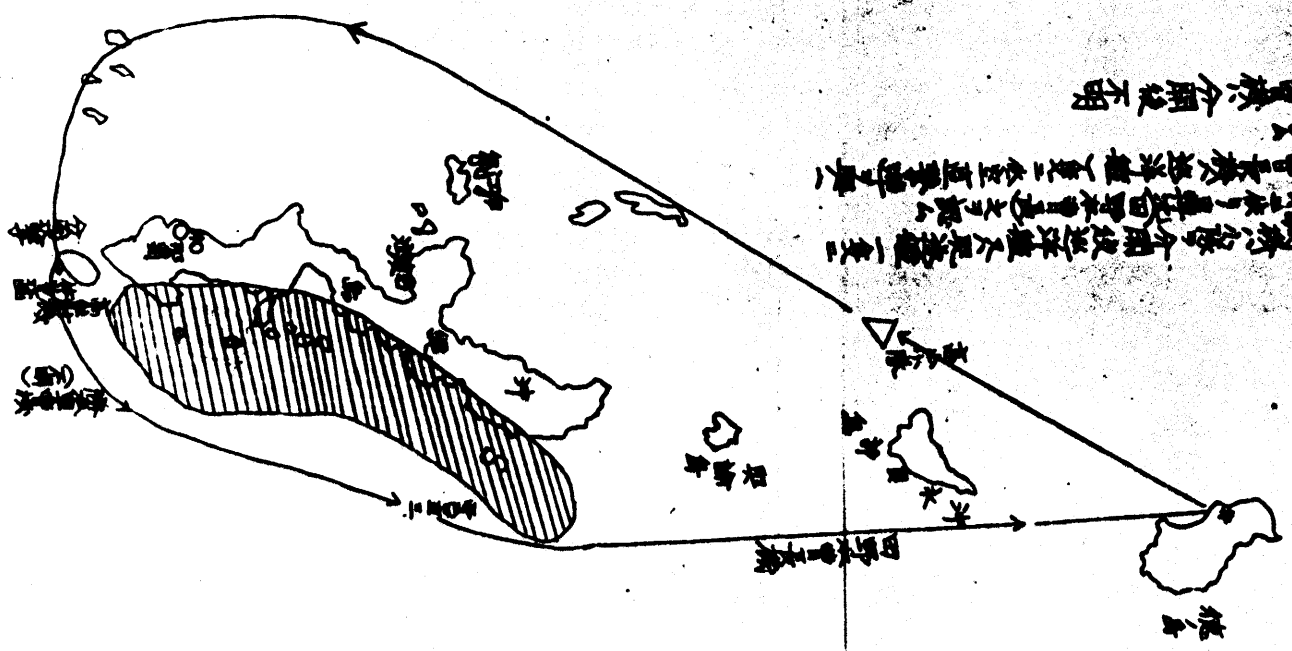
1/1000



別 列 戰 隊 巡 過



四月二日 高山中尉機行到西圖



高山中尉機行到西圖  
 高山中尉機行到西圖  
 高山中尉機行到西圖  
 高山中尉機行到西圖  
 高山中尉機行到西圖  
 高山中尉機行到西圖

高山中尉機行到西圖



第一大飛行団司令部經由

飛天會第八號

生死不明死亡認定 關不件報告

飛行第十六戰隊長

昭和廿年六月六日  
第一大航空軍司令官 啟

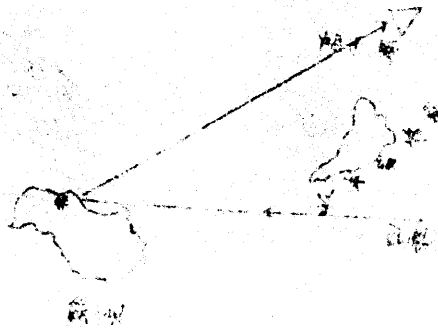
昭和三十年四月二日那霸周邊船舶団攻撃ニ於テ生死不明トリタル  
左記者ニ係ル首題ノ件陸軍密第一九三三號ニ據リ別紙ノ  
通死七認定シタルニ付報告ス

左記

陸軍軍曹 路川 一夫  
中尉(兵長) 石原 一夫

Handwritten notes at the top of the right page, including names and dates.

Vertical handwritten text on the left side of the right page.





生死不明者死亡認定書

飛行第六大隊隊附 陸軍中尉 石原一夫

同 陸軍中尉 石原一夫

一、生死不明トナラレル日時場所

日時 昭和二十年四月二日〇五〇五

場所 沖繩群島那覇中飛行場西方海面

二、生死不明トナラレル前後ノ状況

一、任務 那覇周辺艦隊攻撃

二、敵情 敵機、夜間制空シテアラレタリモ不明ト同時ニ列島線

ニ沿ヒ増進シテアラキ敵船隻ノ状況別紙要圖、如シ

三、氣象 沖繩島南東全般ニ下層雲在リ

四、通信 機ニ當リ無線機若シテアラシモ連絡不能ナリキ

五、交戦状況別紙要圖、如シ

三、採ラレル搜索手段

戰場に於ける自隊の準備は空中搜索其他の搜索不能なるに  
 在地各部隊の搜索方法も不明なり

四死七傷は、理由

左、如シ

小隊が分隊後路川橋の高處より低下シツ中飛行場西方へ接近  
 突入シ行ツテ該大砲は同時直掩砲開戦アリシ飛行第百五戰  
 隊司令部中尉ヲ確認セリ、路川軍曹平素、別被瀆達攻撃  
 精神充實を言動に、地域の時間的關係より、路川機、體當  
 攻撃に依り、自爆戦死セリト認定ス  
 昭和十年六月一日 飛行第六十六戰隊長 藤井權吉

四月四日

454

801



山麓  
 飛行場  
 路川

官 副長 田  
注

極 秘

飛天人第七號

第一大飛行司令部經由

生死不明者死亡認定簡る件報告

飛行第六十六大隊隊長

昭和二十年四月六日

第一大航空軍司令部  
昭和二十年四月四日 沖繩南島敵船因攻撃に於て生死不明トナリタル左  
記者係ル首題ノ件昭和二十年陸軍密第九三三號ニ據リ別紙ノ通  
死亡認定トタルニ付報告ス

左記

陸軍 佐野 大田 信義  
特務兵長 眞壁 八郎

飛行機部隊三隊

秘

四月二日

山崎三隊司令部  
因後不明諸方面

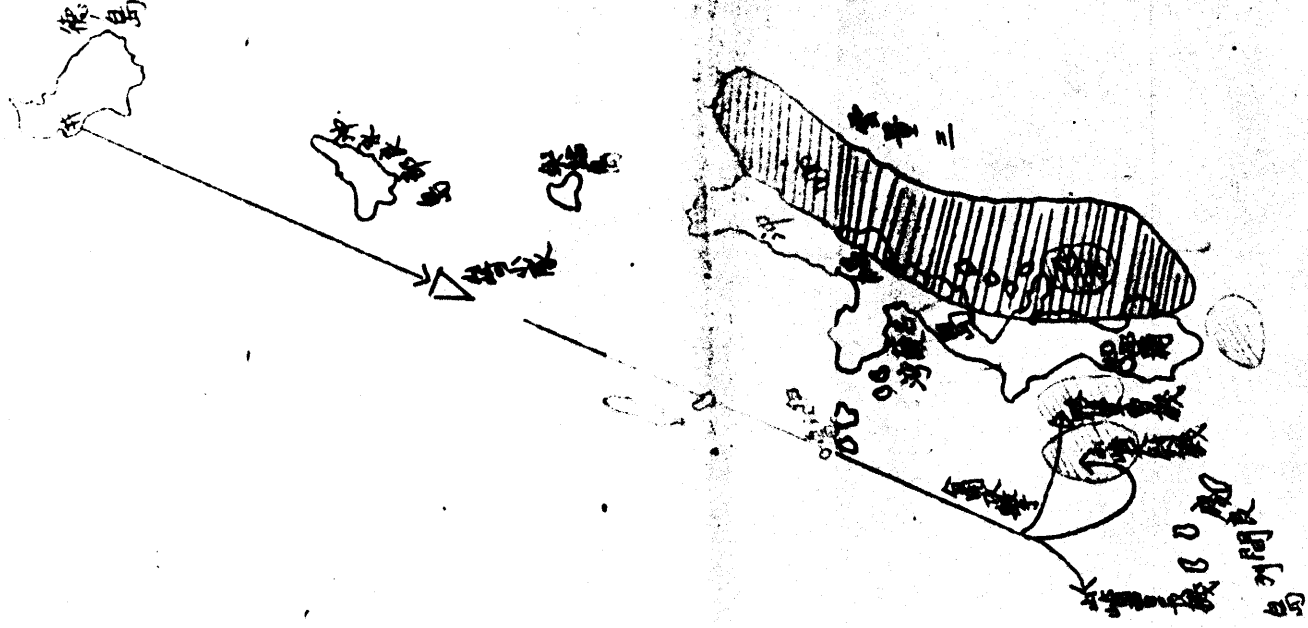


秘

# 四月二日 路川軍會機行動要

山崎小隊分開後路川軍會機八中飛行場西方三定空止  
爾後不明該方向三定空止一認六研字本中尉確認

1000



生死不明者死に認定す

飛行第六十六戰隊附陸軍法尉大田信義

時幹兵長 眞壁八郎

一、生死不明トナリタル日時場所

日時 昭和二十年四月四日〇、四、五

場所 那霸南飛行場西側海面

二、生死不明トナリタル前後ノ状況

一、任務 沖縄同遭敵艦圍攻撃軍機母

二、敵情 ケラマ同遭敵艦船二群

三、氣象 快晴、雲量一雲高五〇〇—一〇〇〇雲形積雲

四、通信 機上無線機ハ整備シアリタルモ連絡不能ナリキ

五、交戦状況別紙要圖ノ如シ

三、捜ソル搜索手段

戦場ニ於テ自隊ノ飛行機中搜索其他ノ搜索不能トナリタル

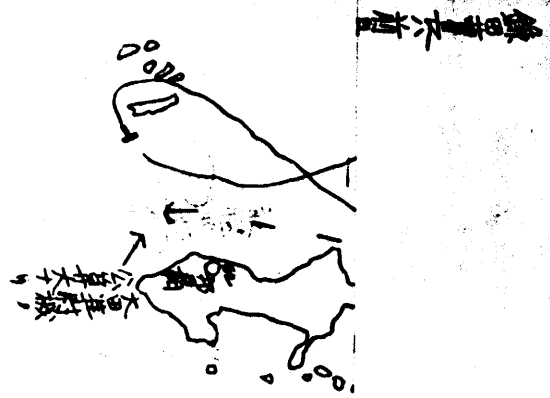
四死と起死の理由

在地各部隊。搜索方依頼せしめ消息不明ナリ

大田機ハ本師運機ナルモ第四番機録日書長(平公候補生)  
機、誤ラシム大田機ノ状況左ノ如シ  
録日機ハ大田機ノ引續キ離陸月明下概キ三番機ノ續行シ  
航進セシモ與輪島附近ニ、視界ヲ去ル大田機爾後ノ行動ハ  
不明ナルモ。四五五那霸西方海面中隊豫定攻撃地区ニ於テ  
大火柱一ヲ確認セリ該火柱ハ大田機ノ出發前此ノ平素  
ノ實行力ニ當ル言動ニ時間的關係ナリ大田機ノ體當  
リ自爆戦死セシムト起死ス

昭和十年六月一日 飛行第六十六戰隊長藤井禮吉

過終開戦圖



1000



川

自爆戦死セロト起死ス

昭和十年六月一日 飛行第六十六戦隊長 藤井 操 吉

ノトナリ、ノトナリ、ノトナリ


### 週経闘戦圖

秘

案二

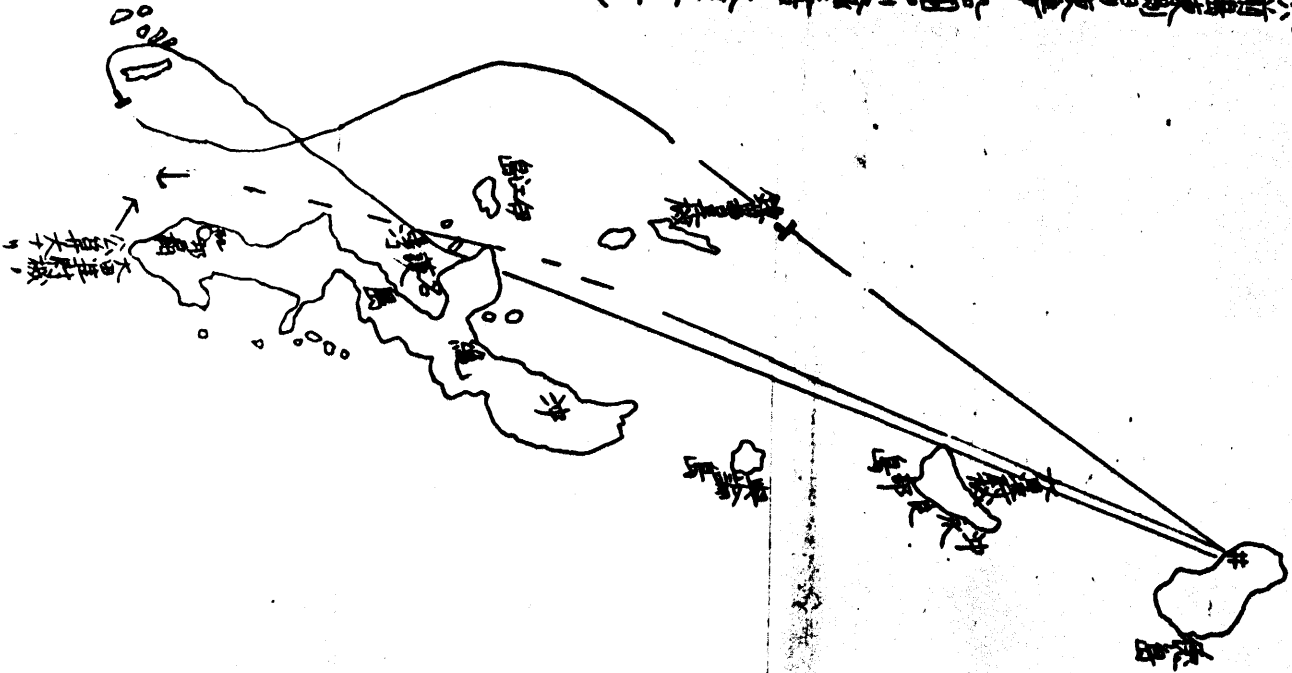
1/1005



大田渡村

四五南飛行場西側津面に火柱三挺(機首長)確認

### 四月四日大田渡村飛行動要圖



機首長が南側を衝き、東寄、北回し、津面を通過し、西寄に折返す

極秘

第六航空軍司令部終由

飛交人高第三八號

生死不明者死亡認定ニ関スル件報告

飛行第六大隊隊長

昭和廿年六月六日

陸軍大臣殿

昭和三十年五月二十九日ケケニ列島周辺敵輸送船團攻撃ニ於テ生死不明トナリタル左記ニ係ル首題ノ件昭和三十年陸軍省第一九三三號ニ據リ別紙ノ通り死亡認定ニ付報告ス

左記

陸軍少尉

今田義基

特幹(兵)

長澤一郎



生死不明者死亡認定書

確行第六大戦隊附 陸軍少尉 今日英基

同 特許(長澤) 長澤一郎

一、生死不明トナリタル日時場所

日時 昭和三年三月十九日 〇六〇六

場所 那覇西才約一〇ノ料ノ海面

二、生死不明トナリタル前後ノ状況

ノ任務 シラノ列島周辺敵輸送船團攻撃

ノ敵情 敵艦船ノ位置ハ對空火器ニ依リ判断シ得スモ

絶ス小數機ヲ以テ制空シアリ

ノ氣象 西南諸島一休下層雲在リ細部不明ナリヤキ

ノ通信 機上無線機ハ整備シアリタルモ連絡不能ナリキ

ノ交戦状況 別紙要圖ノ如シ

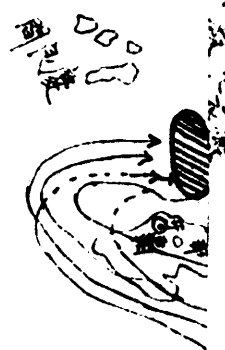
三 搭りたる捜索手段

戦場トシテ自隊ニ在リテ中隊捜索其他ノ捜索不能ナリ  
ルヲ以テ在各地各部隊ニ捜索ヲ依頼セルモ消息不明ナリ

四 死亡認定ノ理由

中隊長山崎大佐等ノ遺体ヲ見出し死体ニシテ状況左ノ如シ  
今日機ハ編隊ヲ分南後ガ子ヲ誘致艦船砲ニ誘致中ヲ目  
視セルモ首里上空附近ニテ視界ヲ去レ爾後ノ行動ハ不明  
トナルモ六ノ大ガ子ヲ誘致中隊攻撃地画ニ於テ大型艦一隻  
ニ大爆発ヲ起シ時ニ鼻光セルヲ目撃スル所聞助ニ  
依リ該機ノ体當リ文字等ニヨリ自爆戦死セルト認定ス  
昭和二年六月日 飛行第七大隊隊長 藤井権吉

子山  
子山



山崎大佐  
山崎大佐

山崎

山崎

二天壕發つ起る時、時ニ島光ニレバ自守ス不依ソテ所間のニ  
 依リ該機ノ休養ヲ大勢ニテリ白澤賦元ニレトテ不認定ス  
 昭和二年六月一日、飛行若公大戦隊、藤井権吉

中島



三月十九日 中島少尉機行勢要圖



行如概要  
 沖崎島北例子。五吾國島東南端  
 熊勢ノ點ニ那覇西方約三千呎高  
 1. 金少尉機、全周旋技敵不ヲ認  
 2. 山崎曾長機、全周旋不認  
 3. 島崎曾長機、全周旋不認  
 4. 突入正午、如三  
 5. 機三列進上得不歸還  
 6. 二機一ヲ認此ヲ以テ

姓名	職名	備考	備考

東留入一第〇八號

戰時生死不明者死体收容三演三件移標

昭和二年三月九日 東部軍管區留守部長

飛行第六大隊隊長殿

左記者二演三首遺三件 和歌山地區遺兵隊長ヨリ

別紙通 通標アノ名ニ付移標ス

左記

陸軍部長

服部博

村									
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

和歌山縣 一六九

陸軍航空下士官一変元休二付  
 所在判明二團二件報告通疎  
 和歌山地區憲兵隊長

第九五〇部隊  
 隊員係長 服部 博

右有二村ノ所屬部隊調査セルモ既報ノ如ク管内ニ該隊ナク  
 其後遺留品ニ付調査調査ノ結果ハ紙片ニ記載セラレタル  
 地名(三重縣鈴鹿市)新若松町三六番地ニ依リ鈴鹿市長  
 宛照會セル処別紙ノ如ク回答アリタルヲ以テ同隊留守担  
 任部隊ニ通報相以度報告ニ通疎ス

一所屬

老記



和歌山縣 一六九  
 陸軍航空下士官一変元休二付  
 所在判明二團二件報告通疎  
 和歌山地區憲兵隊長

比馬水遣 柳田(イウ)一五。部隊 青森隊  
六本 落也

光送光

中憲司今官、陸軍航空本部長

(丁)



別紙

「送電文」

ハットリ、ヒロシノシヨゾク、ブタイ ヒタウハケン  
一五。ブタイ サイトウタイ スズカレキヨ

成第元  
#タイ

寫

和歌山縣第一〇一號

陸軍航空下士官、喪死体陳着

二週之件報告、通牒

昭和廿四年四月廿五日

和歌山地陸軍航空隊

四月十一日和歌山縣西牟婁郡新井村海岸二陸軍航空下

士官一、喪死体陳着、此等以下、檢視、此二犯罪之依此等

非、此等明白、此等所屬部隊所在地等不明、此等以下、假

察、此等以下、所屬部隊調査中、此等

状況、左記報告、通牒、此等

左記

一、喪死者所屬官等、此等

所屬、此等九、一、部隊、此等官等、此等運賃割

引證記載、部隊、此等

昭和廿四年



陸軍部長 服部 博

(陸定生令于二年)

二 発見日時場所

八日 時 昭和二年四月十二日十二時頃

三 場所 和歌山縣西牟婁郡潮岬村字上ノ海海岸

(別紙第一表圖参照)

三 変死状態の概要

四月十日十二時和歌山縣西牟婁郡潮岬村海岸ニ陸軍航空下士官一、変死体陳着セリト潮岬村役場ヨリ、急報ニ接シ下士官ヲ現況ニ派遣檢視ヲナスニ死体ハ和歌山縣西牟婁郡潮岬村字上ノ海海岸波打際若懸上ニ向テ西足ヲ大、字ニ関テ水浸ナリ陸軍部長階級者附着飛行服履面靴台足ニ飛テ同行長靴ヲ穿テタル征候状トナリ發見浮腫状ヲ呈シ潮面乾幹、皮膚殆ト

利難ニ死後十日内外ヲ経過セルト推定スルニ他殺トシテ容疑ノ點ヲ認メス

而シテ同海岸附近ニハ仮死体ニ關連アリト思料セル特異ナル事案ナク且潮流ハ南方ヨリ四圍定カ岬ヲ經テ和歌山縣國界見海岸ニ卷戻シ南下セリ時速約四節、且潮、支流流レテル際著シク死体ハ四圍九州岬村合方面ヨリ潮流ニ卷テテ潮岬海岸ニ漂着テ潮時若懸上ニ取残ナルモハ思料

四 原因ト認ムル要點

直接ニ死因ト認ムルモノナキモ体表及腹部等ノ變化ハ總テ死後ニモト推定シラレ他殺ノ疑トナリテ飛行中ノ事故ニ依リ海中ニ墜落 溺死セルモノナリト思料ス

上檢視(檢証)官署

富本憲天介 陸



大光兄弟、住所、職業、又名

農業

當六十二年

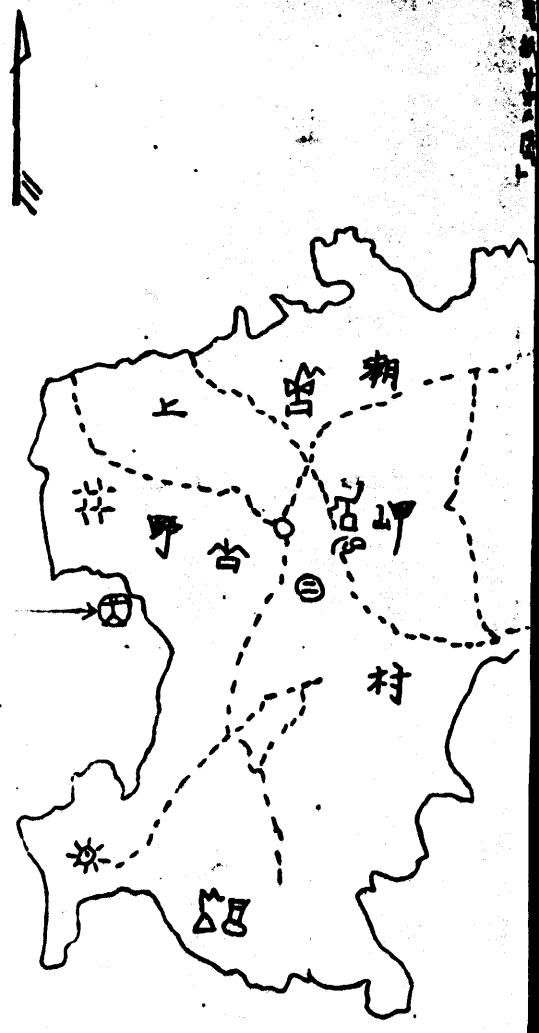
七、愚共、處道

狀元、如、愚、下、官、可、取、道、運、主、會、下、二、松、視、  
結果、祀、罪、一、回、レ、モ、ト、非、ル、モ、ナ、リ、ト、判、断、セ、ラ、ル、モ、死、者、  
所、屬、部、隊、所、在、地、不、明、レ、爲、不、取、敢、死、体、ヲ、和、敷、山、界、西、平、  
榮、部、湖、畔、村、裏、地、ニ、假、埋、葬、ス、ル、ト、夫、レ、所、屬、部、隊、ヲ、調、査、  
申、上、レ、モ、未、判、明、ナ、リ

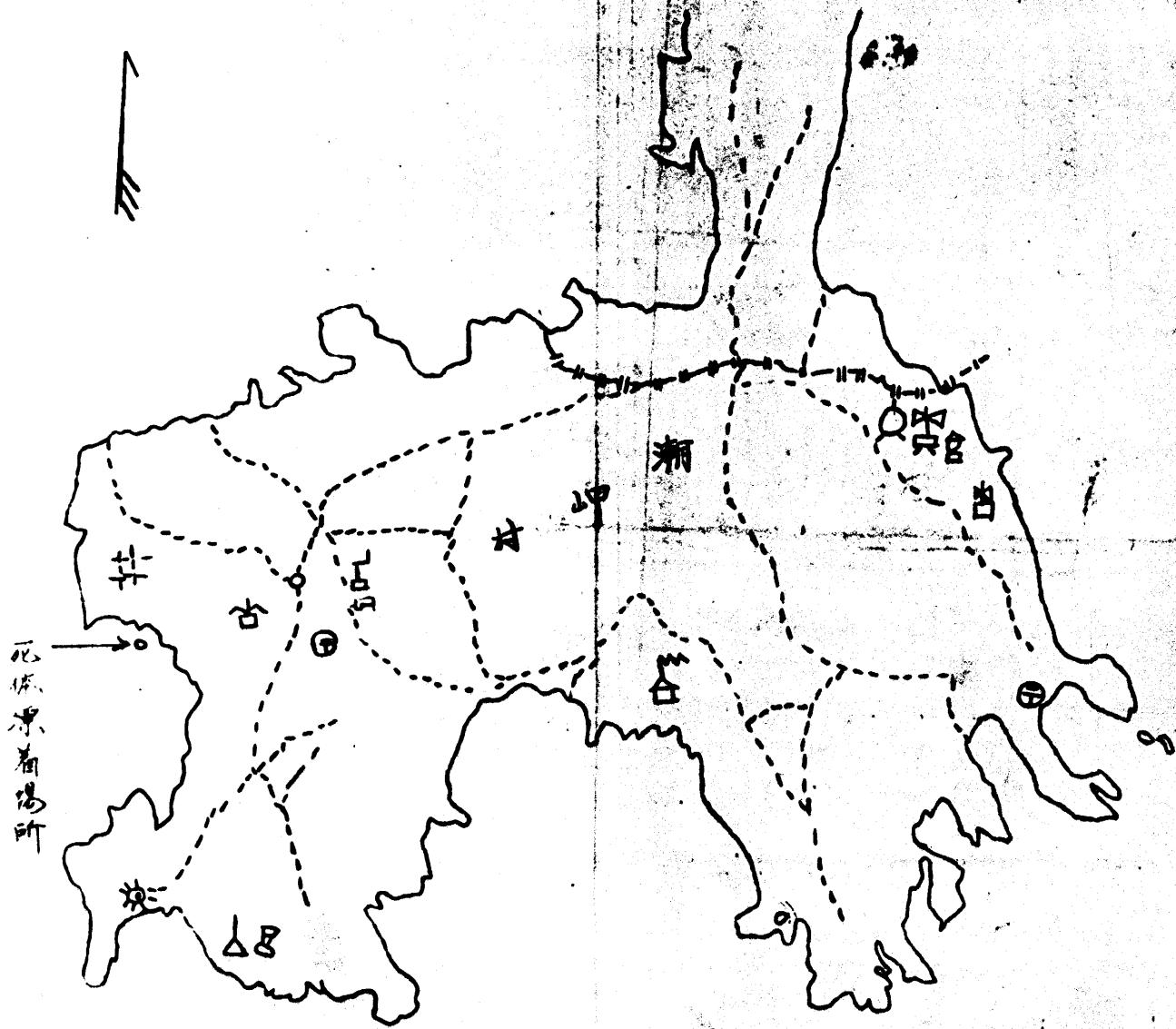
報光、通、疎、光

由、部、隊、司、令、官

(丁)



死、体、源、首、埋、所





電報起案

姓名	職	電報起案
陸軍大臣	陸軍部	昭和三十九年八月十日
海軍大臣	海軍部	昭和三十九年八月十日
陸軍省	陸軍部	昭和三十九年八月十日
海軍省	海軍部	昭和三十九年八月十日
陸軍省	陸軍部	昭和三十九年八月十日
海軍省	海軍部	昭和三十九年八月十日
陸軍省	陸軍部	昭和三十九年八月十日
海軍省	海軍部	昭和三十九年八月十日
陸軍省	陸軍部	昭和三十九年八月十日
海軍省	海軍部	昭和三十九年八月十日

昭和三十九年八月十日

陸軍省 海軍省 昭和三十九年八月十日